

1. 地区の概況

- 1) 洋光台地区は区の南西にあり、JR 根岸線の洋光台駅を中心に、全体が計画的に整備された地区です。土地区画整理事業（都市整備公団施行。207.5ha。事業開始：昭和 41 年 10 月。換地処分：昭和 48 年 8 月）により造成され、戸建て住宅地と集合住宅地が整備されました。
- 2) 人口は約 24,600 人です。緩やかな減少が続いています。
- 3) 世帯数は約 12,000 世帯。世帯数は緩やかな増加傾向でしたが、平成 23～28 年の期間は緩やかな減少になりました。
- 4) 平均世帯規模は 2.04 人／世帯です。

●人口・世帯数の概要

	平成18	平成23	平成28	平成18 ～23年	平成23～ 28年	平成23 年比率 (%)	平成28 年比率 (%)	平成28年 区平均比 率(%)	平成28年 市平均比 率(%)
人口 (人)	26,268	25,611	24,551	▲ 657	▲ 1,060	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳人口 (人)	3,226	2,885	2,517	▲ 341	▲ 368	11.3	10.3	12.0	12.7
（内0～5歳） (人)	1,256	1,070	1,008	▲ 186	▲ 62	4.2	4.1	4.9	4.9
15～64歳人口 (人)	17,011	15,814	14,386	▲ 1,197	▲ 1,428	61.7	58.6	61.4	63.7
（内20～24歳） (人)	1,279	1,064	1,145	▲ 215	81	4.2	4.7	4.8	5.1
（内25～39歳） (人)	6,096	5,107	3,888	▲ 989	▲ 1,219	19.9	15.8	17.9	18.5
65歳以上人口 (人)	6,031	6,912	7,648	881	736	27.0	31.2	26.6	23.6
（内65～74） (人)	3,713	3,621	3,545	▲ 92	▲ 76	14.1	14.4	13.8	12.4
（内75歳以上） (人)	2,318	3,291	4,103	973	812	12.8	16.7	12.8	11.2
世帯数 (世帯)	11,975	12,255	12,035	280	▲ 220				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.19	2.09	2.04					2.10	2.13

* 「町丁別世帯と男女別人口」「町丁別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

世帯規模の縮小傾向が続いています。

平成28年現在では、根岸地区(1.95人/世帯)、屏風ヶ浦地区(1.99人/世帯)に次いで小さくなっています。

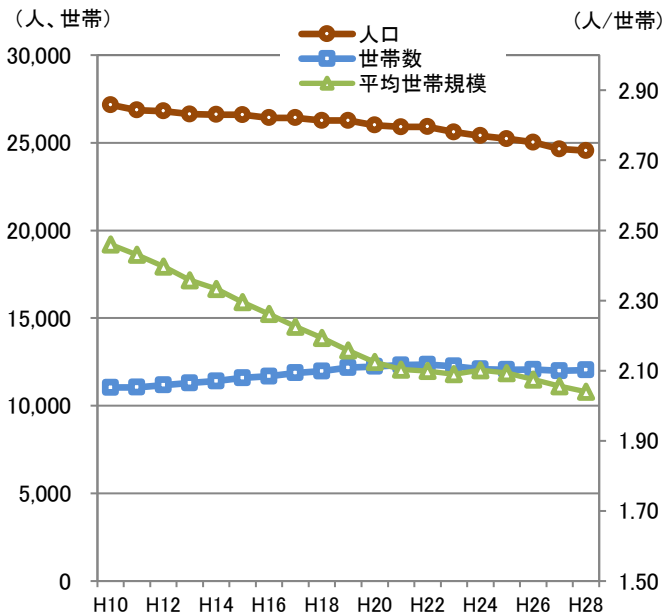
5) 年齢構成は、区の平均と比較すると、年少人口(0～14歳)と生産年齢人口(15～64歳)の比率が低く、高齢人口(65歳以上)の比率が高くなっています。高齢人口比率(31.2%)、75歳以上の人口比率(16.7%)ともに区内で最も高くなっています。

6) 年齢5歳階級別人口の推移率をみると、20歳代に転入増加傾向がみられますが、一方で30歳代～40歳代前半とその子どもの世代が転出減少する傾向がみられます。

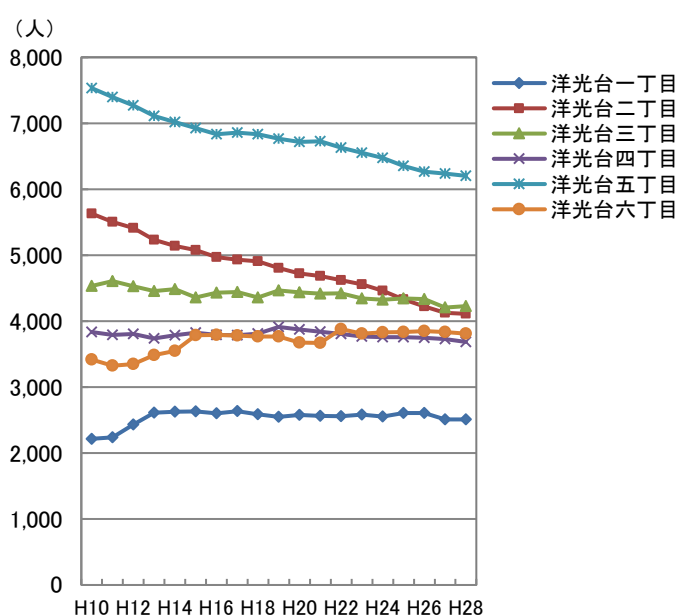
20歳代が転入増加する傾向も弱まってきています。

7) 地区内には多くの公的な住宅が立地しており、その居住世帯数は、地区の世帯数の概ね1/2を占めています(公的借家に住む世帯の比率は約32.5%。3階建て以上の共同住宅に住む世帯の比率は約63%です)。昭和40年代前半に建設された住宅が大半です。

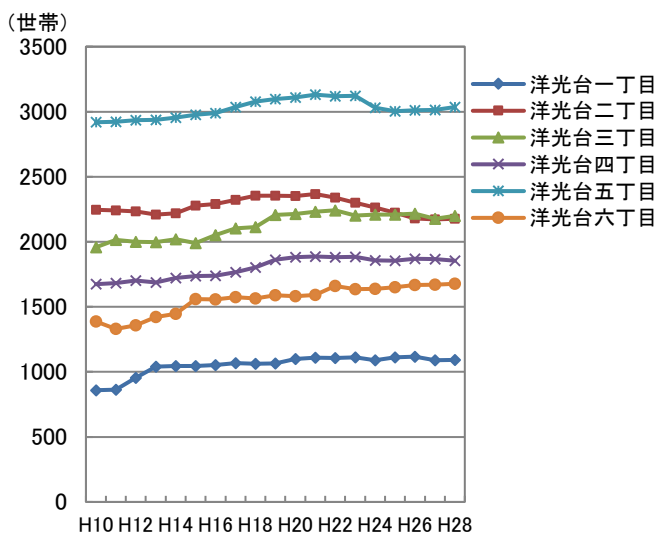
●地区の人口、世帯数の動向



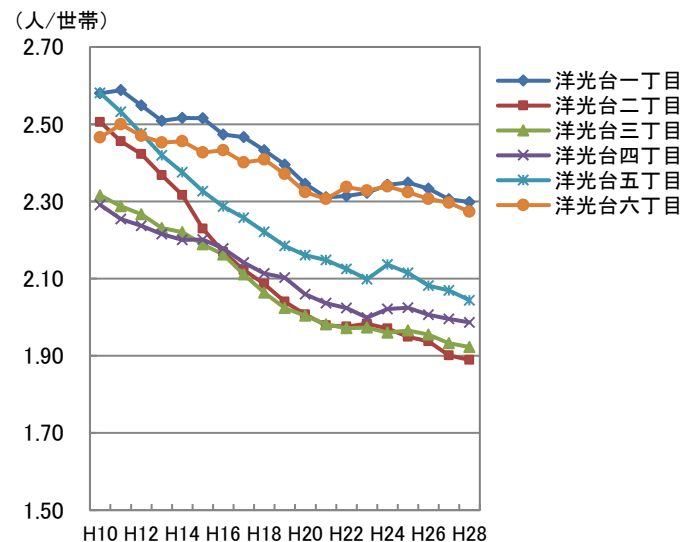
●町別・人口の動向



●町別・世帯数の動向



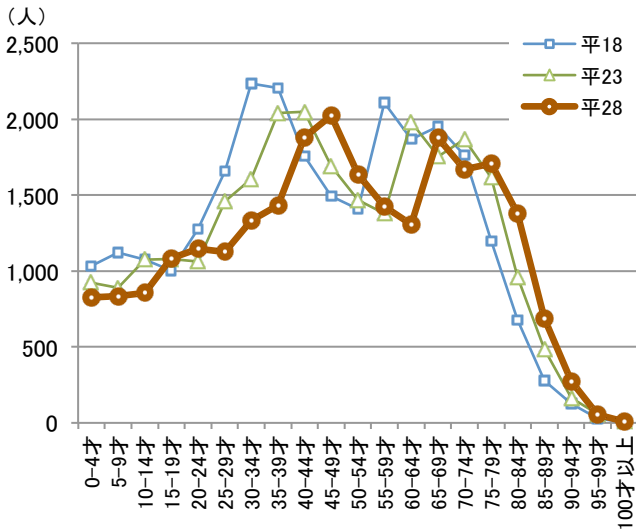
●町別・世帯規模の動向





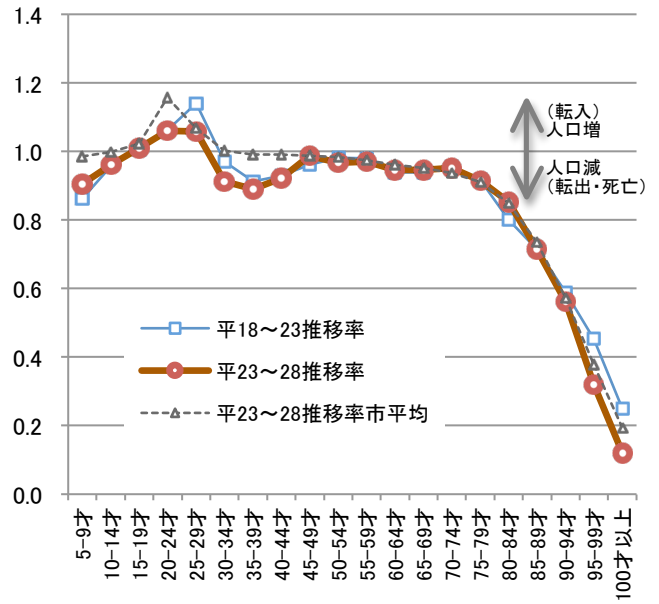
*都市計画基礎調査結果 平成25年(横浜市建築局)を活用した

●年齢5歳階級別人口の変化



*各年「町丁別年齢別男女別人口」による

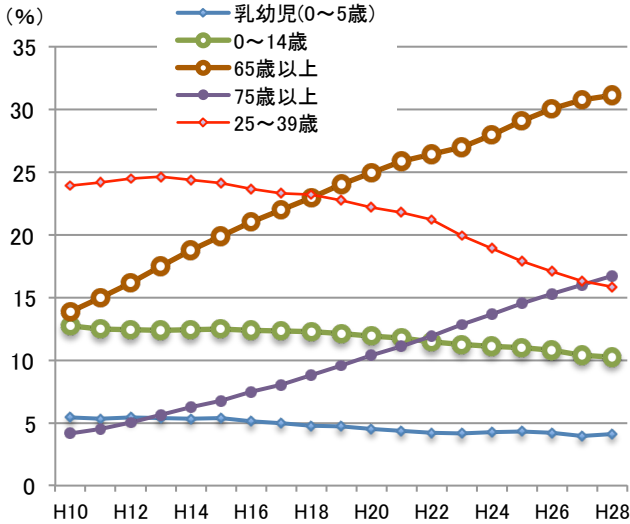
●年齢5歳階級別人口の推移率



*各年「町丁別年齢別男女別人口」による

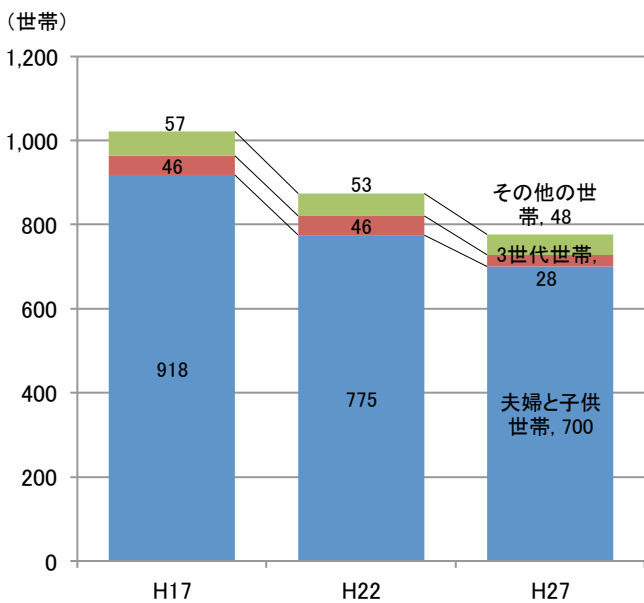
*推移率：この場合は、年齢の5歳別人口が、死亡、転出入によって5年後にどう変化するかをみる指数。現在の5歳階級別の人口÷5年前の5歳若い5歳階級の人口

●乳幼児・高齢者比率等の動向



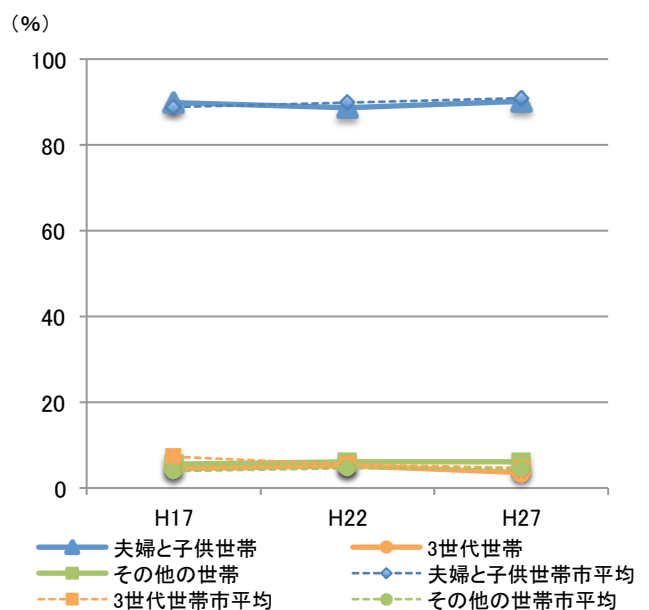
*各年「町丁別年齢別男女別人口」による

●6歳未満の子どもがいる世帯の動向



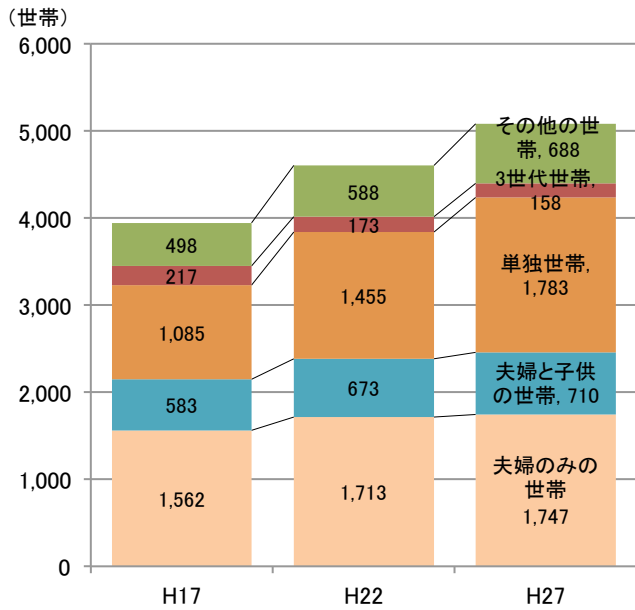
*各年「国勢調査」による

●6歳未満の子どもがいる世帯の比率

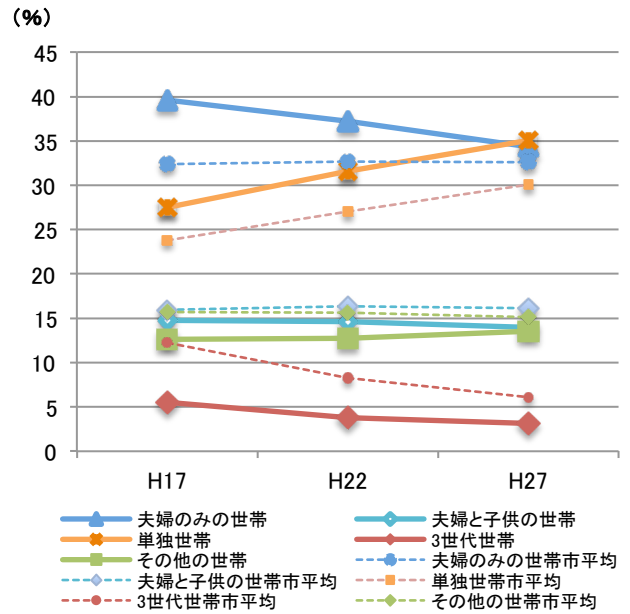


*各年「国勢調査」による

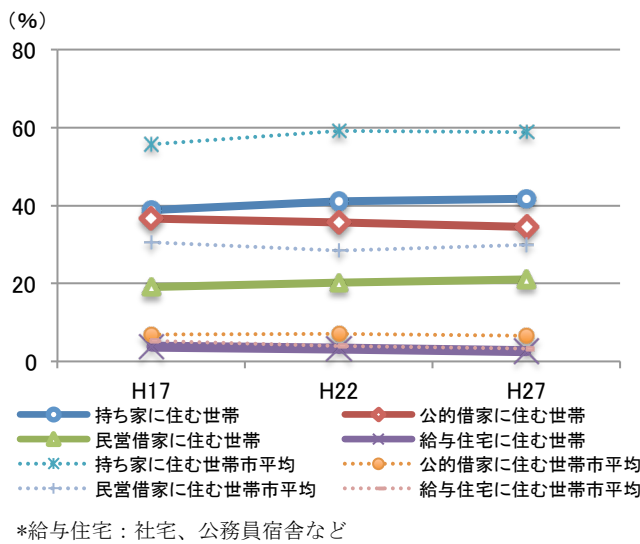
●高齢者 65 歳以上がいる世帯の動向



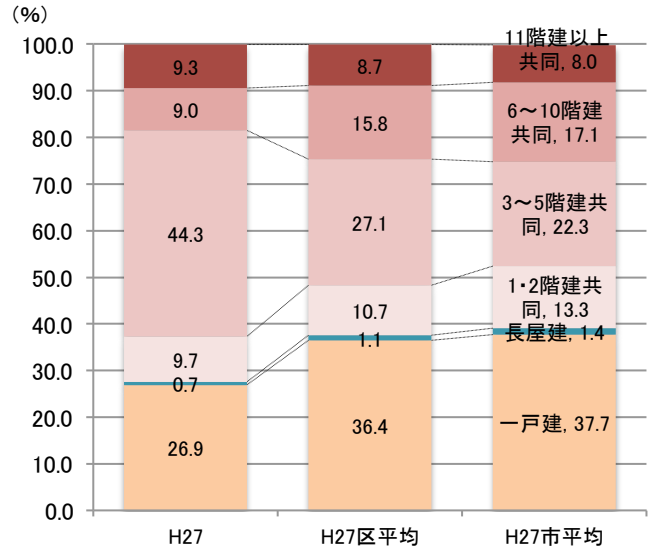
●高齢者 65 歳以上がいる世帯の比率



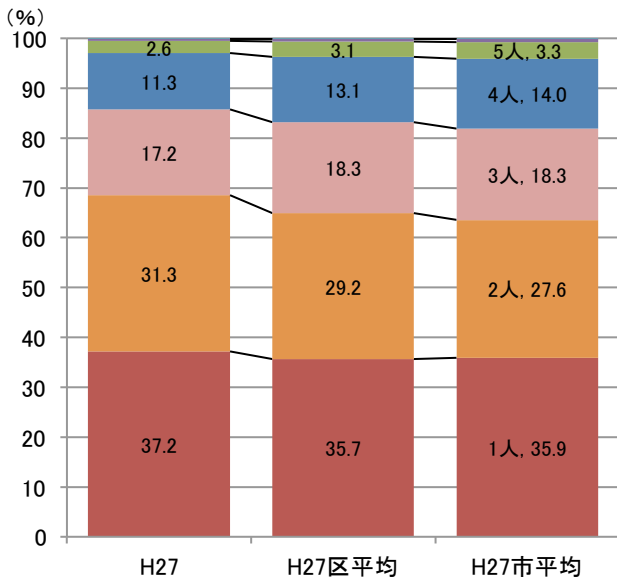
●住宅の所有関係別世帯の比率



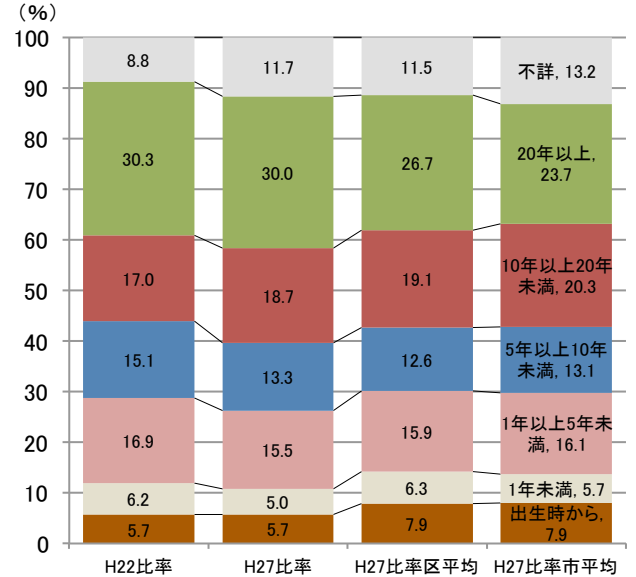
●住宅の建て方別世帯の比率



●規模別世帯の構成



●居住歴別人口の比率



2. 地区の居住者特性

2.1 公的な賃貸住宅、3～5階建ての共同住宅で人口が減少している

- 1) 地区の人口は概ね安定していますが、住宅の所有関係別に平成 22～27 年の期間の世帯人員の動向を見ると、持家（戸建て、分譲マンション）が世帯数、世帯人員ともに増加する一方、公的な賃貸住宅では、世帯数は安定しているものの、世帯人員の減少傾向が続いています。
- 2) 平成 22～27 年の期間の住宅の建て方別に居住人口の動向をみると、一戸建ては緩やかに増加しました。共同住宅のうち 3～5 階建て共同住宅では居住人口の減少が続いています。

2.2 区内では、屏風ヶ浦地区とともに最も高齢化が進んでいる地区であり、高齢者数も増加を続けている。

対象地区全体の年齢構成は、概ね区の平均と類似していますが、高齢化率が高くなっています。子育て世代の減少傾向は区の平均に比べて強くなっています。

- 1) 洋光台地区の高齢化率は 31.2%（区平均 26.6%）です。また、75 歳以上の比率は 16.7%（区平均は 12.8%）です。

高齢者の平成 23～28 年の 5 年間の増加率は、12.8%で、同じ時期の区全体の高齢者の増加率（17.9%）を下回っています。しかし、同じ時期の 75 歳以上の高齢者の増加率は 24.6%であり、区全体の 75 歳以上の高齢者の増加率（19.9%）を上回っています。

- 2) 子育て世代（25 歳～39 歳）の人口は約 3,890 人です。地区の人口に対する子育て世代の人口比率は 15.8%で、区の平均（17.9%）に比べ低くなっています。

平成 23～28 年の期間でみると、子育て世代の人口は減少しており、減少率は▲23.8%でした。子育て世代の比率の低下は全市的な傾向ですが、洋光台地区では、子育て世代の減少傾向が区の平均（▲11.9%）に比べて強くなっています。

2.3 洋光台地区内の町別年齢構成

- 1) 洋光台地区内で町別の特徴をみると、年齢構成に大きな違いがあります。

洋光台二丁目や洋光台五丁目等は 65～70 歳代の比率が最も高く、その子どもの世代である 40 歳代

前半を中心とした世代の人口比率も高くなっています。

これに対して、洋光台一丁目、三丁目、六丁目は 40 歳代後半の人口が多くなっています。

洋光台四丁目は、70 歳代後半の人口が最も多くなっているものの、他の年代との比率の差が少なくなっています。

- 2) 住宅の所有関係別居住世帯の比率や住宅の建て方別世帯の比率をみると、洋光台二丁目や洋光台五丁目で共同住宅に住む人が多くなっています。3 階建て以上の共同住宅に居住する人の比率は、洋光台二丁目で 85.5%、洋光台五丁目で 88.9%となっています。

共同住宅の比率が高い町（洋光台二丁目、光台五丁目）では、世帯分離（子どもの転出、子育て世代の転出）により、人口の減少、高齢化がより強く進行しています。

2.4 現在の傾向が続けば、生産年齢の人口の減少が続き、75 歳以上の高齢者が増加する

最近の人口減少の大きな要因は、子育て世代の減少と乳幼児と小学生の減少です。

年齢 5 歳階級別の人口の変化をみると、現在の傾向が続けば、子育て世代の減少が続きます。団塊の世代が高齢期に入るので生産年齢人口の減少が続くと同時に、75 歳以上の高齢者の数も今後 10 年間程は増加し続けると考えられます。